

Messor ibericus

Santschi, 1925

南ヨーロッパにすむ毛深い茶色の種子収穫アリで、女王アリは別種のオスをクローンで生み出すことで、雑種の働きアリを育てます。



写真： Jonghyun Park (clurarit), CC BY 4.0



ひと目でわかる情報



巣の温度
22–28 °C

巣の中



巣の湿度
40–60 %

穀物庫：30–50 %



休眠
10–15 °C

11月 – 2月



結婚飛行
4月 – 6月



働きアリ
4–8 mm

大型働きアリは最大10 mm



女王
9–10 mm

女王は1匹または複数



コロニーの規模
働きアリ3,500匹規模

成長速度：速い

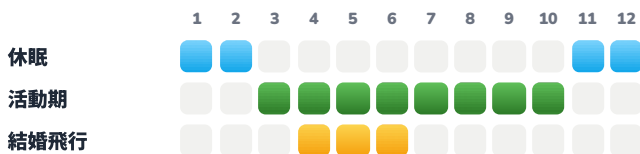


脱走リスク
低い

おとなしく、めったに脱走しません



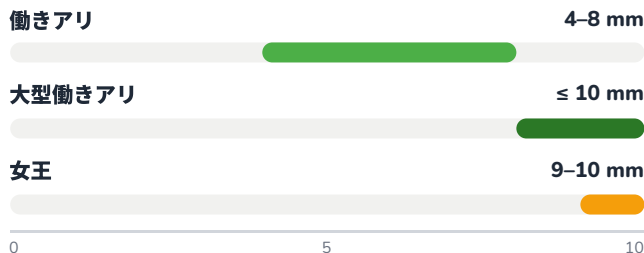
1年をひと目で



月は温帯ヨーロッパと地中海地域の目安です。正確な日は天気で決まるため、お住まいの地域では飛行が早まったり遅れたりすることがあります。



同じ縮尺での大きさ



飼育の早見表

食べ物

種子

昆虫

砂糖

おすすめの巣

- Ytongの巣
- サンドイッチ型の巣
- アクリル製の巣

この評価の理由

- ✓ おとなしく、めったに脱走しない働きアリ
- ✓ 完全閉鎖型：最初の働きアリが現れるまで、女王に餌は不要です
- ✓ 種子を貯めるので、餌やりを忘れても問題ありません
- ⚠ 乾いた穀物庫と湿ったブルード室のよう、湿度の勾配が必要です



飼育者からのメモ

ヒント

暖かく、わりと乾いた巣が合っています。2025年にNatureに載った研究のチームは、65のコロニーを25°C、湿度40%の部屋で飼い、草の種子を与えました。水を入れた試験管か、湿った一角を1つ用意しましょう。ただし種子の貯蔵場所は乾いたままにしてください。湿りすぎた種子は発芽してしまい、そうすると働きアリが巣の外へ運び出すからです。

注意

巣のそばで拾った女王アリは、単独ではいつまでもコロニーを始められないかもしれません。イタリアでは、羽のある女王アリが飛び立たずに巣の入り口で待っているのが見られ、飼育者の報告によると、地上で交尾したあと、巣に戻るか働きアリの一団と一緒に出ていき、単独でコロニーを創設することはめったにありません。このような女王アリは働きアリ数匹と一緒に採集するか、すでに働きアリがいるコロニーから始めましょう。